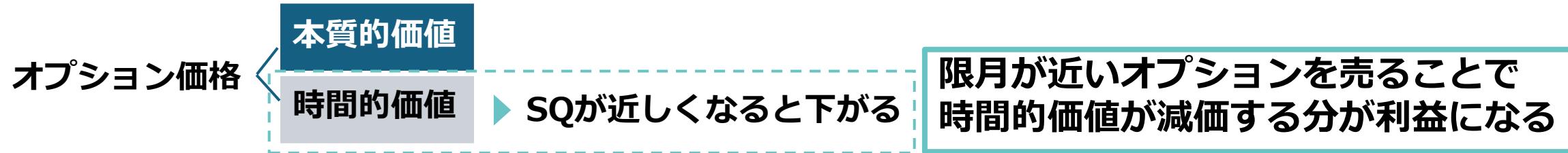


ボラティリティが小さいとき：先物サンドイッチ



先物とオプションを組み合わせるのがポイント

具体的には：

先物を買った場合（ロング）、コール（買う権利）オプションを売る。

先物を売った場合（ショート）、プット（売る権利）オプションを売る。

たとえば、先物が上がると思っても実際には下がるリスクもある。

▶オプションで先物とは反対のポジションを抱き合わせる事でどちらに動いてもヘッジができる。

例）9月19日（金）の先物価格の場合：日足を見て上がりそうだと思ってLを考える

25/12月限 44,970円 L 2枚,併せて25/10月限 46,000円のC（買う権利）を410円で3枚売る

※ 先物をショートする場合はプットを売る

※ 売るOPの価格は500円～600円が好ましい一方、出来高も見て総合的にポジションを建てる